

VI

風水害の基本対策

1 台風・大雨情報を入手しよう

台風は、熱帯性低気圧のひとつで、日本へは、7月から9月を中心に接近し、毎年2〜3個程度上陸します。台風がもたらす風は驚くほど破壊力が強く、進路の左側より右側のほうが強風になりやすいので注意しましょう。

台風は、地震と違って、事前に規模や襲来時間を予測することができます。正確な情報をいち早くキャッチして、対策をとり、被害を最小限にとどめたいものです。

集中豪雨は、狭い地域に、短期間のうちに雨が集中して降ることをいい、梅雨の終わり頃によく起こります。直径数10kmの範囲に1時間に50mm以上降れば、集中豪雨と呼んでいます。

集中豪雨が起きると、河川の氾濫や、がけ崩れによる地すべりなどの被害が生じるため、造成地、がけ付近では十分な注意が必要です。

集中豪雨は狭い地域に突然降るため、予測はたいへん困難です。急に注意報や警報が出されることがありますので、気象情報や雨の降り方に気をつけましょう。

■県内の大雨注意報と警報

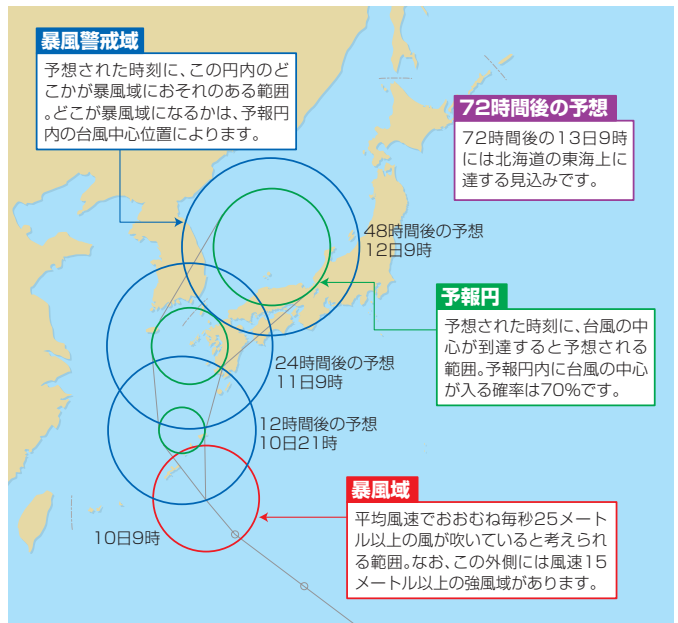
	大雨注意報	大雨警報
1時間雨量	30mm (ただし総雨量が50mm以上)	50mm (ただし総雨量が100mm以上)
3時間雨量	東予・中予で45mm以上 南予で50mm以上	東予・中予で90mm以上 南予で100mm以上
24時間雨量	東予・中予で90mm以上 南予で100mm以上	東予・中予で180mm以上 南予で200mm以上

※どれかに該当すると予想されるときに発令される

■1時間の雨の量とその降り方

5〜10mm	雨の音がよく聞こえ、あちこちに水たまりができる。
10〜20mm	雨音で話し声がよく聞き取れず、一面に水たまりができる。
20〜30mm	土砂降りや側溝があふれ、小さな川の氾濫・がけ崩れの危険がある。
30mm以上	バケツをひっくり返したような激しい雨。山崩れや崖崩れが起こりやすいので、危険地帯では避難の準備が必要。

■台風の進路予報の表示



台風が接近すると、気象庁から12時間、24時間、48時間、72時間先の台風の進路予報が出されます。

台風の中心が到達すると予想される範囲を破線の円で示したものを予報円といい、この円の中に台風の中心が入る確率は70%です。また、台風の中心が予報円内に進んだ場合に、風速25m/s以上の暴風域に入る恐れのある範囲を暴風警戒域といい、実線の円で表示されます。

台風の動きが遅い場合は、12時間先の予報が省略されることがあります。また、暴風域や暴風警戒域のない場合は、予報円のみが表示されます。

■台風のおおきさと強さについて

台風のおおきさの分類	風速15m/秒以上の強風域の半径
大型(大きい)	500km以上〜800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

台風の強さの分類	中心付近の最大風速
強い	33m/秒以上〜44m/秒未満
非常に強い	44m/秒以上〜54m/秒未満
猛烈な	54m/秒以上

※気象庁は台風のおおよその勢力を示す目安として、「大きさ」と「強さ」をそれぞれ5等級に分けて表現していましたが、「弱い」や「小さい」という表現は正しい情報を与えないおそれがあるため、これらの表現を使わないことになりました。

2 早めの安全対策をとろう

台風や大雨情報が出たら、早めの安全対策が必要です。

- ラジオ、テレビなどの気象情報や市町村が流す防災関係の情報に注意する。
- 外出先から早く帰宅し、家族全員と連絡を取り合う。家族が離ればなれになった時の連絡方法や避難場所を確認しておく。

3 家の周りのサインを見逃さないで

風水害から身を守るためには、日頃から家のまわりの様子に目を配っておくことが大切です。危険な箇所は修理、補強をしましょう。チェックリストを作って、点検するのでもいいでしょう。



- ゆるんだスレート、屋根瓦のずれや割れ、トタン屋根のめくれやゆるみなどを点検、補修しておく。
- 雨どいや側溝を整備・清掃して、流れをよくしておく。
- 排水溝を掃除して雨水があふれないようにしておく。
- がけの上の大木を切ったり、風で地盤を揺さぶる樹木を短く切っておく。また、不安定な岩は取り除く。
- 石垣などのひび割れは修理・補強しておく。



- がけは崩れそうな土砂を取り除き、ビニールシートなどで覆い、雨の浸透を防止しておく。
- 浸水のおそれのある地域は、家財道具を高いところに置くようにする。
- 台風が近づいたり大雨が予想される場合は、ベランダの物干しざおや家の周りの植木、プランターなどが、とばされないようにしておく。

4 危険な土地はここ！

豪雨に弱い土地は危険度も高くなるので、自分の家のまわりがどのような土地なのか、知っておきましょう。

●造成地

丘陵地や山岳地などを切り崩して造った造成地では、地質・地形が不安定です。したがって、豪雨が襲うと、地盤がゆるんで崩れる危険があります。

●扇状地

山間部の集中豪雨には注意しましょう。豪雨によって山崩れが起これると、土石流が扇状地を直撃しますので、早めの避難準備が必要です。

●海岸地帯

海岸地帯は、高潮の被害が予想される地域です。満潮の頃に台風が近づくと、高潮は猛威をふるいます。特に海岸近くのゼロメートル地帯（平均満潮以下の土地）は、高潮のときに浸水の被害をうける危険が大きくなります。

●山岳地帯

山崩れは、集中豪雨だけでなく地震によっても発生します。とくに樹木の少ない山間部では、土石流の危険が大きいので、十分な警戒をしましょう。

●河川敷

かつて河川敷だったところや、川の流域は、豪雨による洪水の危険が大きいため、注意報や警報がでたら、いつでも避難できる準備をしましょう。

